

令和 8 年度長野市スポーツ推進審議会（第 1 回）会議録

日 時	令和 8 年 7 月 3 日（金） 午後 1 時 30 分～午後 3 時 30 分
会 場	長野市役所第一庁舎 5 階 庁議室
出席者	委員 9 名、オブザーバー 1 名、事務局 11 名、業務委託事業者 1 名
次 第	1 開 会 2 挨 拶 3 自己紹介 4 諮 問 5 議 事 （1）第四次長野市スポーツ推進計画策定について （2）スポーツに関するアンケート調査の結果について （3）長野運動公園新総合体育館の料金設定について 6 その他 7 閉 会
議 事	（議事進行 会長） 議事（1）：第四次長野市スポーツ推進計画策定について <u>事務局より、資料 1 について説明。以下、質疑応答。</u> G 委 員：第四次計画の方向性として、スポーツを軸としたまちづくり、交流拡大の推進、経済の活性化といった内容を示していただいているが、一番の軸は、長野市民のスポーツを通した健康増進だと思っている。その辺が方向性の中で若干軽視されているようにも見受けられるが、市民の健康増進という部分についてどのように考えているか。 事 務 局：第四次計画における課題として、1 番目に健康増進を掲げている。プロスポーツなどが目立って報道されるが、我々スポーツ課の業務として最もウェイトが高く、苦心しているところは、やはり市民の皆様のスポーツの環境をいかにして維持していくかということになる。方向性の「だれもがスポーツを楽しめる環境づくりの推進」に含まれているとお考えいただきたい。こうした方向性を表に出したほうが良いのではないかなど、本審議会にて議論していただければと考えている。 G 委 員：お話にあった環境の維持と環境づくりについて、市民のスポーツに対する関心度が上がって来ないとアンケート結果に数値として出ており、第四次計画にもきちんと具体的に反映させ、市民の皆さんにお示しすることが重要である。

	I 委員：学校現場にいてもあり、計画の課題にある「運動部活動の地域展開」に非常に関心を持っているが、学校現場にいる者同士で話をすると、地域展開が始まる前に比べ、子供たちのクラブへの所属率は明らかに下がっている。生涯にわたって、とは言うが、中学校で運動部に所属するという、本格的にスポーツに慣れ親しんでいくための機会が、地域展開によって奪われている子どもがいるのではないかと非常に危惧している。 以前卒業生に、部活動、クラブはどうしているのか聞いたところ、クラブ活動をやっている子は10人のうち9人とのことだった。その10人は、以前であれば、運動部に所属して活躍していたと思われる子どもたちであり、その1名がクラブに所属しなかった理由は、やはり家庭の問題であり、他の子たちも自力では参加できず、保護者の送り迎えによって参加しているとのことだった。そうした状況に対し、市としてどのような手を打っていくのかが非常に大きな問題かと思っている。小学生男女、中学生男女のスポーツテストの結果が、毎年国から出されており、長野県の場合には現状維持という状態になっているところが多いが、この状態が続けば明らかに下がっていくのではないかと考えている。そうしたところも含めてどのように考えていくのか、大事な視点にさせていただけるとありがたい。 事務局：我々も今、学校教育課と連携しながら、部活動、クラブ活動への所属について調査を進めている。大きな変化は出ていないが、細かい部分を精査して現状を確認しなければならないと思っている。引き続き状況の把握を進め、本会議の中でも情報を提供していきたい。 事務局：補足として、市として部活動の地域展開を進める中で、子どもたちが多様なクラブを選べるよう、選択肢の増加に取り組んでいる。しかし、家庭環境や地理的条件によりクラブに通えないという課題があるということも承知している。教育委員会と連携しながら対策を講じているが、本計画策定の議論の中でも色々のご意見をいただきたいと考えている。 B 委員：塾で教えている中学生の中に、両親が共働きで社会体育館まで送迎できないため、3年からは勉強に集中する、という子がいた。高齢者のスポーツ施設へのアクセスや、身近にスポーツ団体があることなど、ハード面、ソフト面の両方から、誰もが参加できるまちづくりを進めていく必要があることから、計画の方向性の中に、「まちづくり」「環境づくり」ということが挙げられているのではないかと考えている。これから皆様の意見を聞き、こちらからも意見を言いながら、良い計画にしていきたい。 A 委員：計画の課題で1丁目1番地として「スポーツ実施率の向上、スポーツを通じた健康増進」と書いていただいているが、スポーツ実施率といった
--	--

	場合に、今スポーツをしている人がさらにするようになるという部分と、スポーツ習慣のない人が、やってみようかと思ってするようになる部分があると思う。どちらも含まれていると思うが、市として課題や必要性をどのようにお考えなのか、説明していただきたい。 事務局：次に説明するアンケートのところでも話に出てくるため、その辺も踏まえてお聞きいただきたい。 議事（２）：スポーツに関するアンケート調査の結果について <u>業務委託事業者より、資料２，３について説明。以下、質疑応答。</u> A 委員：概要版６頁目、「長野市民における「観る」スポーツの現状」とあるが、スポーツを観たことで好きになった、やってみた人もいると思う。学校、プロスポーツチーム等と実施した、子どもたち向けのスポーツ観戦事業について教えていただきたい。 事務局：長野市には４つの地域密着型プロスポーツチームがあり、バスケットボールの信州ブレイブウォリアーズでは、授業の一環で子どもたちに試合を観戦してもらう「キッズドリームデー」を３年ほど前から実施している。パルセイロレディースでも去年から「ドリームスクールデー」を始めしており、普段観に行く習慣がなくても、直に触れていただける機会を設けるようにしている。 アンケート調査も後追いで行っているが、学校現場、お子さんたちから好評をいただいている。ただ今回のアンケートは対象が１８歳以上であるため、その声が資料に反映されているかは別の話になる。 事務局：プロスポーツチームの観戦体験の提供という形でご説明したが、それ以外にも、例えば、学校観戦として全中大会スケート大会で同世代の子どもたちが活躍している姿を見ていただいたり、アイススポーツの世界大会などがあった際、主催者のご厚意でいただいたチケットを各学校にお配りして観戦していただいたりなど、子どもたちに対する観戦機会を提供している。 E 委員：総合型地域スポーツクラブの認知度が低いというアンケート結果は実態だと思う。私たちのクラブも中学校の部活動の地域展開の受け皿として活動しているが、クラブのメンバーも働いている人間が多く、時間的な制約がある。 一方で、中学校や小学校は大体３時～３時半に学校が終わるが、クラブに入らない子どもたちを中心に、体育館を利用してニュースポーツ
--	---

	をやってみよう、と提案をしている。我々は豊野地区で活動しているが、中学校でアンケートを実施したところ、やはり 60%ぐらいの子どもたちが、学校が終わってそのまま帰宅しており、何とかスポーツと接点を持ってもらいたいと思って活動している。 I 委員からも話があったように、送迎の問題がかなり大きく、複数の総合型スポーツクラブの中で連携していけないかという提案も出ている。しかし、磐越道の事故もあり、話が止まってしまっている。 いずれにせよ、保護者が働いており、子どもたちの学校が終わってからの空白の時間を、我々スポーツクラブで引き受けたときに、スタッフの時間的制約もあり、また空白の時間ができてしまう。他県に研修に伺うと、働き方改革もあるが、学校の先生たちにご協力いただいていると聞く。逆戻りではなく、授業が終わった後、希望のある先生方に入っていただき、我々スポーツクラブと連携しながら進めていくことが、良いのではないかと考えている。 A 委員：総合型地域スポーツクラブに参加したいと思わないという結果が前回から伸びていることが不思議ではあるが、馴染みがない場所になってきているのかと感じる。立ち上げたときは、様々な小さなイベント、親子のイベント、1つのスポーツ種目に参加してもらうことが多かったと思う。地域とのスポーツ交流イベントや、親子向けのスポーツプログラム、障害者のスポーツプログラムについて、市と総合型で提携ではないが、広報ながのなどを通じて広報していけるようなことがあれば良いと思う。 E 委員：私たちは住民自治協議会の下で活動しているが、町の運動会やイベントなど、我々が中心となってやっている活動も多くある。各住民自治協議会と連携しながら活動していくことで、認知度も上がり、活動が拡大できていくのではないかと感じている。 B 委員：総合型地域スポーツクラブには、学校の部活動がなくなったときに地域でスポーツを楽しむための存在として、すごく期待している。多くの皆さんに知っていただき、子どもの保護者もそこに参加し、さらに会員数が増えていくと良い。子どもたちがスポーツ施設に行くための公共交通機関の補助など、様々なアイデアを出しながら、計画に連携していけたらと思う。 G 委員：現場の皆様が大変なご苦勞をされている中、部活動の地域展開に伴い、スポーツを志す子供たち、そしてご家庭のバックアップ体制の構築が喫緊の課題であると感じている。 私の息子がコーチを務めるクラブチームが上位大会に進出した際、保
--	--

	護者の時間的・経済的負担から、参加を断念せざるを得ない子どもがいたと聞いている。移動費や宿泊費も加わってご家庭の負担はさらに増大し、こうした状況への支援は不可欠になる。 アンケート結果が示すとおり、運動部活動の地域展開に向けた環境の整備に対し、現場から多くの切実な声が挙げられている。さらに、部活に比べてクラブチームは参加の強制力が弱く、子どもが熱意を持っていても保護者の意向が優先されてしまうケースがあり、それは子どものモチベーション低下にも繋がり、極めてもったいないことだと考えている。 本件が第四次推進計画に反映されるべきものかはわからないが、アンケート結果から読み取ると、非常に重要なことである感じる。 I 委員：先程、総合型地域スポーツクラブでニュースポーツを、という話があり、大変ありがたいことだと思った。やはりクラブに入ろうという子は、自分の意思と家庭の支援の両面が揃っていることが多く、クラブにおいても上位大会を目指していくという性質が非常に強いところが多い。 スポーツを始めるきっかけは必ずしも強い意欲だけではなく、かつては小学校時代に特別な経験がなくても、中学校の部活動を通じて気軽に新しいスポーツに挑戦できる機会が多くあった。しかし、そうした機会が減少している現状では、より気軽にスポーツに参加できるクラブ活動などの存在が不可欠になる。この「気軽さ」とは、家庭の事情に左右されず、地域の子どもたちが身近な場所でスポーツに親しめる環境を意味し、このような取り組みが今後さらに重要になると感じている。 また、各小学校へブレイブウォリアーズやパルセイロレディースの観戦機会をご提供いただいていることは、大変ありがたく感じている。教科の授業に差し支えないよう、多くの提供機会から選択を迫られることもあり、年間を通じた取り組みの情報を共有いただければ、学校での調整がよりしやすくなると感じている。 一方で、市街地の学校と異なり、中山間地域の学校では、試合観戦に赴くことが困難な場合もある。昨年実施されたパルセイロレディースの選手による学校訪問のような、試合に行くことが難しくても「本物」と触れ合える機会をさらに広げていただけるとありがたいと思う。そういった体験が、子どもたちがスポーツに親しむきっかけに繋がると考えている。 A 委員：現場の皆さんの非常に近いところでの切実な声をお聞かせいただいた。部活動の地域展開について、どのくらい考慮できるかという部分
--	--

はあるが、また皆さんのご意見を頂戴しながら、本計画に盛り込んでいきたい。

議事（３）：長野運動公園新総合体育館の料金設定について

事務局より、資料４について説明。以下、質疑応答。

A 委 員：資料５頁目でご説明いただいた新総合体育館の料金設定の考え方について、他の類似施設と比べてかなり安くなっているように見受けられるが、そういう設定で運用していけるということか。

事 務 局：こちらは現行の総合体育館の例であり、４頁目の２番目にてご説明したが、暫定的に現行の体育館の料金や類似施設を参考にして料金を設定する。現行通りの料金にする訳ではなく、新体育館の設備等と比較しながら料金を決めていきたいと考えている。

A 委 員：４頁目の新総合体育館の料金設定に関する方針は良いと思う。指定管理者は既に決まっているのか。

事 務 局：現在の長野運動公園の指定管理者に管理をお願いする予定である。現在の指定管理者は公園全体の指定管理者であり、総合体育館を建て替える際、体育館だけを切り離して PFI を組めないかという検討も行ったが、総合体育館単体ではメリットよりデメリットがかなり多いということで、体育館の指定管理を行うのは、公園全体の指定管理者と同一のほうが望ましい、ということを決めた。

事 務 局：補足で説明をさせていただく。４頁目の３番目に「アリーナの輻射式空調設備は、気候に応じて常時稼働となる予定であることから～」とあるが、輻射式空調設備というのは、風ではなく、床暖房のように、輻射熱を用いて全体の空調を行うという方式の設備である。「常時稼働となる予定であることから」というのは、一度消した場合、再度付けたとしてもすぐには暖める（冷やす）ことができないため、常時稼働としている。輻射式にした理由として、風が出る空調はバドミントンや卓球では使えない、という競技上の理由がまず挙げられる。また、令和元年の台風災害の際に 1,000 人以上が避難したように、避難所としての用途も考えなければいけない中で、風が出る空調は感染症に弱く、そうした観点からも輻射式を採用した経緯がある。

講評

オブザーバー：アンケートの結果等、第四次長野市スポーツ推進計画に関する資料を拝

	見し、非常に興味深く、参考になった。 県の次期スポーツ推進計画にあたっては、長野市よりも一年遅く、令和10年度から第四次計画が始まる。今現在、その準備に取りかかっているところであり、今回の資料は非常に参考になった。 県の第二次、第三次推進計画では、国スポ全障スポの開催を非常に大きな契機と位置付けていた。その成果の分析をしっかりとしつつ、第四次計画では、国スポ全障スポを一過性のもので終わらせることなく、県民の皆様に、その勢い、スポーツに対する熱い思いを持っていただきながら過ごしてもらおう、というところが大きな柱になっている。 今回のアンケートでスポーツ実施率を出していただいているが、県政アンケートでも、週に1日以上スポーツをしているか聞いたところ、県のスポーツ実施率は50.4%という数字であり、80%を超える市の結果とは開きがある。 また、スポーツをしない理由として、「面倒くさい」が昨年の20%から30%と上昇しており、何とかしなければならないという気持ちでいる。 さらに内訳を見ると、若い女性の数字が高い。市の結果からも、働き世代、女性のスポーツ実施率というところが課題になっていると思う。 県では大きな捉え方をして政策を打ち出すが、市町村では、市民に耳を傾けながら、我々の手の届かない、細やかなスポーツ環境をしっかりと整備していただくことが非常に大切になり、それが全県に広がっていくと感じる。
	スポーツ部長挨拶 以上